

雜 錄

**製鐵所の製品廉賣に對し民間製鋼業者の請願** 製鋼懇話會に屬する日本鋼管株式會社外十一社代表者は舊職次の如き請願書を農商務大臣に提出する事としたとの事である。

**官立製鐵所の製品に對する請願** 願意 官立製鐵所は其製品中民間製鋼所に於て製造販賣しつゝあるものと同種類の鋼材に對しては廉賣に依つて市場價格を下落せしむる如き處置を取らざることを方針とせられ價格を定むるに當りては民間業者と可成同一の歩調を取られんことを懇請す。

**理由** 一、從來我國の市場に於ける鋼材の價格は主として輸入品の價格に依て支配せらるゝものにして目下の狀態に於ては中歐諸國間に於て盛に行はれつゝある不正投資の結果極めて廉價に輸入せらるゝもの殆んど輸入の全部を占め之に依て形成せられたる我國の市場價格は我國何れの製鋼所と雖も其製産實費を償ふこと能はざるものなり、然るに官立製鐵所は歐洲輸入品價格よりも尙ほ著しく低廉なる價格を以て其鋼材の販賣を爲しつゝあり。

二、官立製鐵所が此の如き處置を取らるゝは自家財政の窮乏上製品の賣却に急なるが爲めにして其製産實費を支辨するに足るべき正當なる營業的價格にあらざるべしと信ぜらる。

三、此の如き官立製鐵所の處置に依つて民間製鋼所は外國輸入品との競争の外に更に一層強烈なる脅威を官立製鐵所より加へられ誠に容易ならざる困難の立場に在り。

四、此の如く官立製鐵所が民間製鋼所に向てなしつゝある挑戰的競争は種々なる特殊利權を有する官業が是を有せざる民業に對し明瞭なる不當の競争たるなり。

以上の事實に依り直接多大の影響を蒙り實に忍ぶ能はざる苦境に陥りつゝある下名等は製鐵所當局に向て製品賣價の訂正を懇請したるも製鐵所は無止事情に依るとの辯明の外其理由を明示せず其處置を改めず依つて下名等は官立製鐵所を管理せらるゝと同時に民間産業の助長に對し其衝に當らるゝ貴大臣閣下に訴ふるの止むなきに至りたり。

**陳情** 前掲理由に於て陳述仕候官立製鐵所の處置は從來と雖も屢々行はれたる處に有之最近には去十一月二十日官立製鐵所は棒鋼一疋百〇壹圓にて數千疋入札法に依て販賣せられたることあり當時の輸入價格は一疋百十圓なりしが故に正に九圓は不必要なる廉價に有之候官立製鐵所賣價既に此の如くなるより手持品の滞積を憂ふる民間製鋼所も亦之れ追隨ざる可からざることは申す迄も之無從て茲に製鐵所價格を以て新に市場價格を造ることとなり其結果は目下一疋約十二圓に相當する關稅は九圓の效力を失ひ僅に三圓の保護を本邦製産品に加ふるに過ぎざる事と相成之を戦前に於ける一疋拾圓の關稅保護に比するも尙遠く及ばざる結果を生ずるに立到り候次で十二月に入り歐洲の輸入品稍上向して棒鋼は一疋百拾二圓となりたる時に當て官立製鐵所は百三圓と云ふ意外千萬なる低價を以て各種製品二萬五千疋の賣却(十四年一、二月渡)を發表せられ引續き三、四月渡迄も廉賣せんとしつゝ有之候下名等は曩に不當廉賣防止に關する陳情書中具さに陳述仕候通り歐洲目下の鋼材價格なるものは自體製産實費よりする正當なる打算に基くものにあらずして經濟界不況に因る混戦狀態より招來したるものに有之隨て之に依つて支配せらる本邦市場價格なるものは我國の官民何れの工場と雖も多大の損失を免れざるものなる場合に於て多數の株主を擁し營業上の苦辛を極めつゝある民業と異り幾多特權を有し比較的容易に損失を忍び得る官業が民業に先んじて其製品を處分せんが爲めに輸入品の壓迫に依つて生じたる此市場價格に對し更に一般の破壞的相場を現出せしめて顧みざることは此重要産業に關する貴重の保護稅關を無効に歸せしむるのみならず目下産業界の極めて窮迫せる時期に於て産業の破壊を促すものに有

之而かも政府自ら此不當の廉賣を敢てせらるゝ如き結果に相成候も是決して政府の本意とする處には有之間敷候元來此の如き事態を生ずるに至りたる原因は官立製鐵所の御經營の都合殊に金銀の關係等より當局者として販賣を急がざる可らざる事情が主なるものと承及候得共一面には製鐵所當局者が市場の趨勢如何に拘はらず單に自個獨斷の立場にのみ囚はれ國家重要産業の破壊をも招致すべき大事を深く考慮せられざる筋合と相成候事は私共の到底堪へ得ざる難事に之候何卒特別の御審議を加へられ適當の御處置を相仰度謹て請願仕候次第に御座候。

**製鐵懇話會請願と製鐵所** 日本鋼管株式會社外製鋼懇話會に屬する十一社代表者が舊臘政府に對し官營製鐵所製品の拂下價格を成るべく市價と同一歩調を取り之によつて市價の下落をなす如き事なからしむべきやうとの請願を提出したとの報に關し當の八幡製鐵所側の意見を聞くに

製鋼懇話會側から果して右の如き請願を提出したや否やは知らないが若し提出したとして其成行がどうなるか夫れも未知の問題であるから別に何等の意見としては併し理由書及び陳情書の中には製鐵所の先物拂下價格が發表當時の市價より廉價であつたとの例を示してゐるが何分先物の事であるから夫れを以て一率に解するわけに行かない尤も此事については日本鋼管の白石氏が來所の際一寸口に出された事はあるが大體製鐵所の公定價格の上下にしても決して夫れが爲に市場を攪亂せしむることなきやう十分慎重な態度を取つて居ることは一般承知の筈である、要するに此事に關しては尙相互に研究を要するものと思ふ、又目下懇話會の内川崎造船所住友製鋼所淺野造船及び淺野製鋼並に日本鋼管の五社に對し年四萬五千噸即ち一ヶ月三千七百五十噸外に東海鋼業に年三萬噸一ヶ月二千五百噸宛の鋼片の特定拂下をなしてゐるのに對して何れも今少し量を増して貰ひたいとのことであるが、第三製鋼及び第六分塊工場等が完成し所謂鋼塊百萬噸製産の實が擧つたなら其拂下量の増加をなしてもよいと思つて居るけれども十四年度迄は増額は到底覺束なく先づ現状を維持する外はない云々。

**支那鑛業振興策に對する洪彦亮氏の意見** (農商公報所載) 中國現今の財政状態は頗る窮況にあり人民も亦疲弊せり故に之を挽回せんとせば先づ財を理するにあり財を理するには其利源の開發に重きを置くべし而して之を行ふには實業を振興して民力を涵養するにあり。抑も國庫を潤澤ならしむるには鑛業の開發を最も適切なりとす、蓋し鑛業の製品は化學工業、機械工業、電氣工業等の原料となり總て工業の根本なればなり茲に謹みて鑛業振興策を列擧して卑見を述べむとす。

#### 一、鑛業銀行を創設して資本を潤澤ならしむること

中國の鑛業は外資關係を除けば多く土法の小鑛業にして其資本多く規模大なるは僅かに數箇所あるのみ土法採掘の如きは至て幼稚にして之が擴張の餘力無く設備も亦不完全なり故に鑛山の數に至りては極めて多きも坑道狭小にして匍匐して出入するの状態なるを以て假令良好なる鑛床に達するも其價值を揚げ難きを通例とす故に若し資本を集めて新式法を採用せんか鑛業の發達は必ず觀るべきなり、土法鑛業人の善良なる者は高利の借款をなすも不良なる者にありては竊にその鑛業權を外人に抵當に供して惜まざるの状態なるを以て國家が鑛業銀行を設立し低利にて鑛業人に貸し附くるの要あり又其株式利息は政府に於て保證し若し利率六厘に及ばざる時は政府に於て調金して之を補ひ更に銀行鑛務技師を聘用して實地に調査せしめ鑛山の眞價を探究し地方の交通貿易の情況を參酌して其投資額を定め鑛業人の納入すべき鑛區稅、鑛産稅は銀行に於て之を徵收することとし毎年銀行より産額を計算して其確實なる統計を作成し銀行の資本を官民折半とし官有株には鑛産稅、鑛區稅を以て之に充つるときは將來の鑛業は發達し従つて鑛業稅の增收となり銀行も亦其利を獲得し得て實に一舉兩得と云ふべし。

#### 二、中央政府に於て製鍊廠を設け以て其模範を示すこと

中國の製鍊廠は漢陽製鐵廠、華昌鍊鋼公司、四川省彭縣鋼鑛公司等を除けば製鍊工場としては殆んど見るべきもの

なし各種の鑛石は製鍊せられて始めて製品となり以て其の製品を販賣するものなれば之を鑛石の儘に販賣するものに比較すれば更に數倍の利益を得らるべし、然るに國內には鑛石を買收して處理すべき製鍊廠少なければ鑛石の市價は外人の手に依て任意に操縱せられ爲に商人は外人の鼻息を視はざるを得ず。且つ政府に於て製鍊廠を設置するの利は各種鑛石を購入して洗滌及選鑛の作業を適宜に配合して冶金、製鍊の費用を節減するを期するものにして純良なる製品を得んため若し酸性の鑛石と鹽基性の鑛石とを同一爐内に於て熔解すれば稍々其費用が省かれ又銅鍍より銅を製鍊するとき金銀を含有する石英を以て爐壁の内塗となさば金銀は自然に銅中に吸収せられて金銀を含有する石英は別に之が製鍊を要せず而して銅中に吸収されたる金銀は之を電氣分解法に依りて銅より分離することを得、歐戰時代には諸外國の需用頗る急なりしたためアンチモニー、鉛、タンクステン、モリブデン等の鑛業は一時盛なりしも歐戰終を告ぐるや一頓挫を來たして遂に振はざるに至れるは時價の騰落に關係ありと雖も亦國內に製鍊廠の未だ設置せられざるにも基因するものにして若し製鍊廠を設置するに於ては金屬鑛石は國內に於て其の販路を求められ自ら其用途を開發して外人の爲に壓迫せらるることなく又採掘したる鑛石の放置より生ずる資本の消耗が防止せられ金屬鑛の利益を増加し採掘者も自然活躍に努め従て鑛業の發達するは自明の理なるも昔に之に安ぜず鑛業製品の産額増加は海外に漏失する損失を防ぎ製品の輸出を奨励して以て多大の利源を開き人民を利し國を富ましむること之に及ぶものなし、製鍊廠の設置地點は交通便利にして石炭或は水力電氣等の供給充分なる箇所を撰ぶを要し上海、漢口、天津等は最も適當なりとす、製鍊廠に要する費用は比較的大なれば官商合辦を可とし若し政府に於て調金し難きときは外國銀行團に向ひて實業借款を計畫するも亦不可なし蓋し實業借款は之を利益方面に用ふるものにして之を政治借款の消費方面に使用するものに比較すれば同一に論ず可らざるなり。

### 三、選鑛場を設立して鑛石の品位を高むること

各種の鑛石は總て岩石、砂礫等の雜物を含有し又は往々數種の鑛石夾雜して生じ或は一種の鑛石に僅に他の鑛物を含有せるため全部其鑛業上の價值を消失せしむるに至ることあり、混在せる相異なる鑛物をして相互に分離し夾雜物を除去し而して純良なる鑛石を得て其の鑛石の遺失を防ぐには選鑛に據るの外なし選鑛とは不純にして製鍊に適せざるもの又は相當の價格を以て販賣し能はざるものを洗選して以て上記の形體を具有せしむる爲に施す作業なり然るに中國の現状を見るに殆んど選鑛場無しと云ふを得べし之れ即ち資本不足及技術智識の薄弱なる等に基因するものにして唯僅に粗略なる選鑛を施して之を販賣するのみにては勢ひ利益を擧ぐることを能はざれば或る方法を講じて鑛業人を奨励し選鑛場を設置せしめて鑛石の品位を高むれば自然高價に之を販賣し得て利益も増加すべし選鑛工場は之を鑛山の近傍に設置し水及石炭供給の便利なる箇所を選択するを可とす。

### 四、鑛業技術研究機關を設けて人材を養成すること

農商部鑛政司の職員は全國の鑛政を司り鑛業を改良し技術を練習するの責任あり、地質調査所の設けありと雖も鑛業技術研究機關に於ては尙缺如せるが如し部内には専門の學識を有する人材なからざれども地球儀、試験室、圖書等の研究に資すべきものなく國內には又大鑛廠の互に相研鑽するに資すべきもの少く従て僅に時に應じて公務を處理するに過ぎず、如斯を以て鑛區圖の審査、鑛業税の計算等に多數の人員を要するは概れ之に基因するを以て農商部鑛政司は一技術研究機關を設け専門の士を集めて共同の研究に任じ採鑛作業、製鍊計畫、石炭節約問題、浮游磁力選鑛、合金、銅の性質及製法、稀金屬の新式利用、土法の改良、世界に於ける需要供給の趨勢、國內需給の情況等の如きは殊に精密なる研究と詳細なる試験とを要するものなれば此等人材を養成して以て深く之が研究に任ず、斯の如き研究は素より必らず效果の觀るべき者ありて將來鑛業の發展に裨益すると實に少からず。

## 五、鋼鐵製造には特に保護を加へ以て工業の基礎を立つること

鋼鐵の製造は工業と密接の關係あり即ち一國の鋼鐵需要の多寡に依りて其國の工業の盛衰を卜するに足る故に鋼鐵事業が盛ならずして工業が發達するものにあらざれば歐洲戰役の際列強は競て軍器の製造に従事し鋼鐵業は過度の膨脹を來したるも歐戰終局を告ぐるや各國は等しく之が整理に着手し且華府會議に於て軍備縮少を決議せる結果生産に過剩を來たし爲に鋼鐵の價格に大暴落を示せり然れども之は一時的の現象にして未だ鋼鐵業の邊に悲觀すべきにあらざるなり、龍煙鐵鑛の製鐵廠は鐵價下落の爲め尙未だ開始に至らず漢冶萍公司大冶新製鐵廠は投資既に千數百萬元の巨額に達し今尙停業中なり之れ時價の關係に因ると雖も然かも資本の薄弱なるも亦其一因たり、地質専門家は中國鐵鑛の埋藏量は決して豊富ならずと云へるは尤も惜むべきことなり、況んや東隣の日本は鐵鑛の供給を殆んど中國に仰ぎつつあり、本溪湖、太審溝は既に中日合辦に歸し安徽の桃沖鐵鑛は日本と賣鐵契約を締結し江蘇の鳳凰山鐵鑛は日本人と交渉中にありて未だ締結せず又漢冶萍公司是二十一箇條内に記入らるる等中國の鐵鑛が如何に重要視せらるるかは之に依りて其一斑を窺ひ得べし故に宜しく特別の方法を講じて運搬費を輕減し釐金税を免じ鋼鐵業をして時價の關係に因る損害を免れしめ以て各種工業の基礎を立て並に軍備の獨立を謀るに固より目前の小利益に拘泥して遠大の企圖を忘るべからざるなり。

以上は其大略を擧げたるに過ぎずして若し廣く鐵道を布設して運輸の便を計り土匪を鎮定して治安を維持し又鑛夫の待遇規則を公布して勞銀の失調を防ぎ鑛業期限を勵行して奸商の壟斷を杜絶し、一方探鑛公司の組織鑛産の輸出入税則の改正等は特に重要な事項にして若し之等を實行することを得ば鑛業の發展は必ずや證するに足るべし彦亮淺學にして政策を論ずるに足らずと雖も謹んで卑見を述べ以て農商總長並に次長の御採擇に備ふ。

## 本邦重要鑛物産額 (大正十三年十一月農商務省鑛山局調査) (△は減少を示す)

| 鑛種      | 大正十三年五月分  | 同年一月以降累計   | 前年同期累計増減と比較 |
|---------|-----------|------------|-------------|
| 金 (匁)   | 178,472   | 1,842,732  | 71,786      |
| 銀 (匁)   | 2,734,328 | 26,796,192 | 372,107     |
| 銅 (斤)   | 5,427     | 91,918,731 | 3,697,760   |
| 鐵 (佛噸)  | 5,427     | 60,283     | △ 3,790     |
| 石炭 (佛噸) | 2,478,293 | 25,193,871 | 1,248,356   |
| 石油 (石)  | 124,893   | 1,377,422  | 744         |
| 硫黃 (佛噸) | 3,889     | 41,217     | 9,486       |

**淺野造船所に製鐵工場建設** 淺野造船所は造船界の不況に鑑み鶴見の同造船所構内に製鐵工場を建設することになり工費約二百五十萬圓を投じて生産力約百五十噸の熔鑛爐を据付中であつたが右工事は着々進行し本年九月一杯には工事の全部を完成せしめ、直ちに火入れを行ふ豫定である、尙ほ右熔鑛爐完成後の成績に徴した上更に工費約五六萬圓を投じて平爐を建設し、鐵鋼製品の完成を期する筈である。

**米鐵市況** ベスレーム製鐵會社社長シユワツプ氏は本年の米國製鐵界に關し新年のジャーナル・オブ・コンマース紙上に於て次の如き觀測を發表してゐる、本年の形勢を見るに製鐵界は米國全般に過去數ヶ年に見ざる好景氣を示すであらう、かく信すべき幾多の理由があると其理由を列擧した。